

「看護研究の倫理」教育に関する課題

—3年課程看護基礎教育における全国調査から—

土井 英子*

看護学科

(2009年2月4日受理)

「看護研究の倫理」に関する報告は近年増えてきてはいるものの、看護基礎教育の中でどのように「看護研究の倫理」について教授しているかについての報告は平成14～16年度日本看護科学学会看護倫理検討委員会が「1996年の看護系大学における研究の倫理審査の体制に関する実態調査」のみであり、3年課程の養成施設を対象とした調査はみられない。

そこで、平成19年に全国調査の3年課程看護基礎教育養成施設の「看護研究の倫理」に関する実態調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。①8割以上の施設で看護研究の倫理の授業で実施しており、7割弱の施設で看護研究の倫理をガイダンスで説明していたが、看護研究の倫理に関する規程などを整備している施設は2割もなく、学内で看護研究の倫理の検討会があったり、倫理審査委員会など学内の組織を整備していたりする施設は5%未満であった。②研究対象の方に研究対象とすることについての同意を取っていると回答した施設は、5割に満たなかった。③事例研究の場合に研究対象者に必ずしも同意を取っていない施設が多く、事例研究の目的と実習での学びとを混同して捉えていると考えられる。④今後は3年課程の看護師養成施設にも倫理審査体制を整備していくことが課題である。

(キーワード) 看護研究, 研究の倫理, 看護基礎教育, 全国調査

はじめに

「看護研究の倫理」については国際看護協会の「看護研究のための倫理のガイドライン」やアメリカ看護協会の『臨床や他の看護研究のためのガイドライン』、日本においては平成14～16年度日本看護科学学会看護倫理検討委員会¹⁾の『看護学研究における倫理審査体制に関するガイドライン』が作成され、「看護研究の倫理」の倫理審査体制については整備されつつあるように思われる。しかし、「看護研究の倫理」に関する報告^{2) 3) 4) 5)}は近年増えてきてはいるものの、看護基礎教育の中でどのように「看護研究の倫理」について教授しているかについての報告は平成14～16年度日本看護科学学会看護倫理検討委員会⁶⁾が「1996年の看護系大学における研究の倫理審査の体制に関する実態調査」のみであり、3年課程の養成施設を対象とした調査はみられない。

そこで、平成19年に全国調査の3年課程看護基礎教育養成施設の「看護研究の倫理」に関する実態調査を行った。その結果「看護研究の倫理」の教授方法について若干の示唆を得たので報告する。

研究目的

全国3年課程看護基礎教育養成施設の看護研究の倫理教育の現状を明らかにし、看護研究の倫理教育のあり方への示唆を得る。

研究方法

1. 調査期間：平成19年1月15日～平成19年1月30日
2. 調査対象：全国の3年課程看護師養成施設499校（開学している510校送付したが受取人不明11校）中215校（回収率43.1%）から回答があった。
3. 調査方法：無記名自記式質問紙を郵送にて配布した。
4. 分析方法：統計ソフトSPSS16.0Jを用い単純集計およびクロス集計を行った。
5. 倫理的配慮：調査目的、匿名性の保持、研究終了をもって質問紙を廃棄することを書面にて説明し、返送をもって同意を得たものとするを明記し、回答により、同意を得たと判断した。対象施設の倫理委員会を経た後に回答を依頼した施設もあった。

*連絡先：土井英子 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

結果

1. 対象校の属性について

調査対象の回答のあった215校中、専門学校は198校 (92.1%) 短大は8校 (3.7%) であった。

2. 研究方法について (図1 参照)

回答の得られた学校において最も多い研究方法是、専門学校の195校中、事例研究155校 (79.5%)、調査研究29校 (14.9%) であった。短大8校では、調査研究が5校と多く、ついで文献研究2校、事例研究1校であった。専門学校では事例研究が多いが、短大では調査研究が多いことが伺われる ($P=0.00$)。

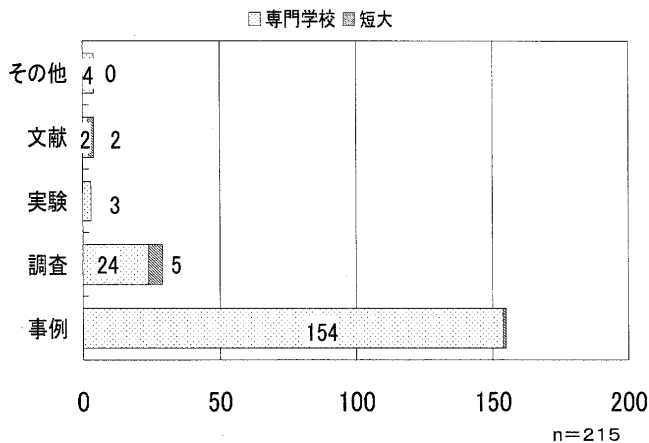


図1 最も多い研究方法

3. 研究実施上の倫理的配慮の指導や対応について (図2 参照)

看護研究の教育活動で倫理的配慮の指導や対応をどのように実施しているかについては、「研究のガイダンスで説明している」のは155校 (72.1%) が実施していると回答した。次に、「看護研究における倫理に関する内容を授業で実施している」は185校 (86.0%) であった。しか

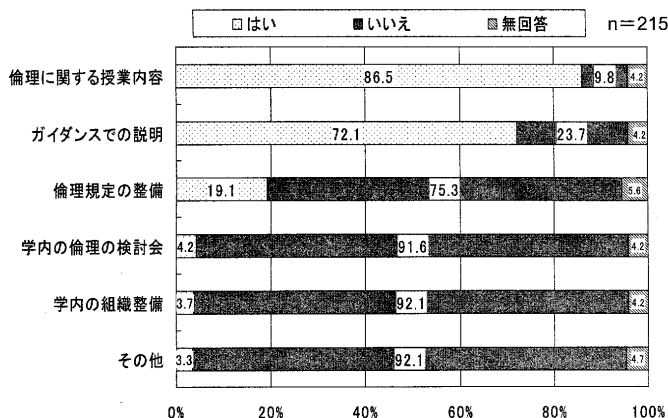


図2 倫理的配慮の指導や対応

し、「看護研究の倫理に関する規程などを整備している」が41校 (19.1%)、「学内で看護研究の倫理の検討会がある」は9校 (4.2%)、「学内の組織 (倫理審査委員会など) を整備している」と回答したのはわずかに8校 (3.7%) と少なかった。

4. 研究対象への同意について (図3・4・5参照)

1) 研究対象者への同意について (図3参照)

「研究対象の方に研究対象とすることについての同意を取っているか」では、必ず口頭・文面両方で同意を取っていると回答したのは60校 (27.9%) であり、必ず口頭で同意をとるが42校 (19.5%)、必ずしもとらないと回答したのは215校中58校 (27%) であった。

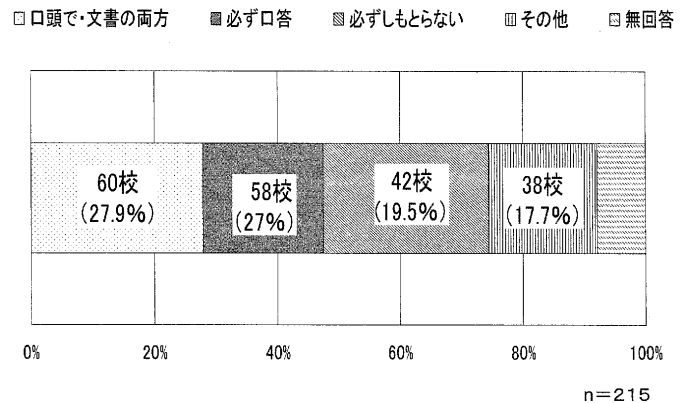


図3 研究対象への同意について

2) 研究方法と研究対象者への同意について (図4参照)

事例研究の場合に必ずしも同意をとらないと回答したのは52校 (34.2%) であり、必ず口頭で同意を取るが32校 (21.1%)、必ず口頭・文面両方で同意を取っていると回答したのは39校 (25.7%)、その他が29校 (19.0%) であった。調査研究では、必ずしも同意をとらないと回答したのは2校 (7.1%) であり、必ず口頭で同意を取るが7校 (25.0%)、

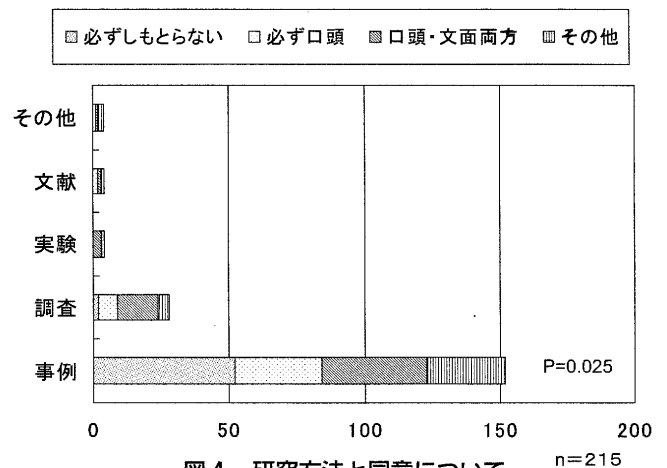


図4 研究方法と同意について

必ず口頭・文面両方で同意を取っていると回答したのは15校（53.6%）、その他が4校（14.3%）であった。実験研究は少ないが、必ずしも取らないと回答した施設はみられず、口頭・文書両方で同意を取っていると回答したのは3校であった。事例研究の場合に研究対象者に必ずしも同意を取っていない施設が多いことが伺われる（ $P=0.025$ ）。
3）ガイダンスで倫理的配慮の説明の有無と対象者への同意について（図5参照）

研究実施上の倫理的配慮の指導や対応と看護研究対象者への同意の有無では、倫理的配慮の説明をガイダンスで実施していると回答した施設のほうが看護研究対象者へ口頭もしくは文章で同意を取っていることが伺われる（ $P=0.013$ ）。

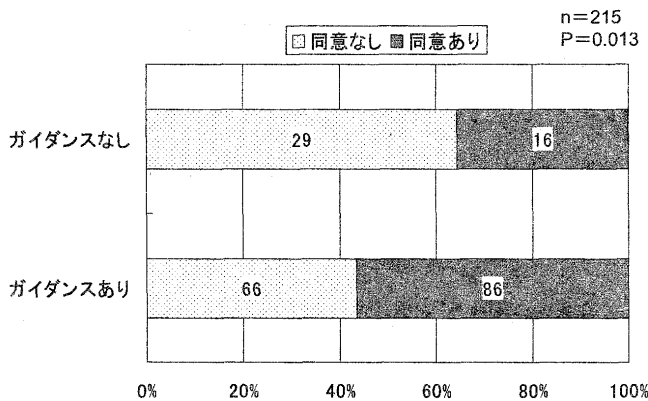


図5 ガイダンスで倫理的配慮の説明の有無と対象者への同意

5. 教員の看護研究の倫理に関する学習（図6参照）

教員の看護研究の倫理に関する学習については、「専門教育のカリキュラムで学習した」が26校（12.1%）、「看護研究の倫理に関する研修会に参加した」が22校（10.2%）、「学内で看護研究の倫理に関する指針など学習した」が24校（11.2%）、「教員個々で学習している」が102校（47.4%）

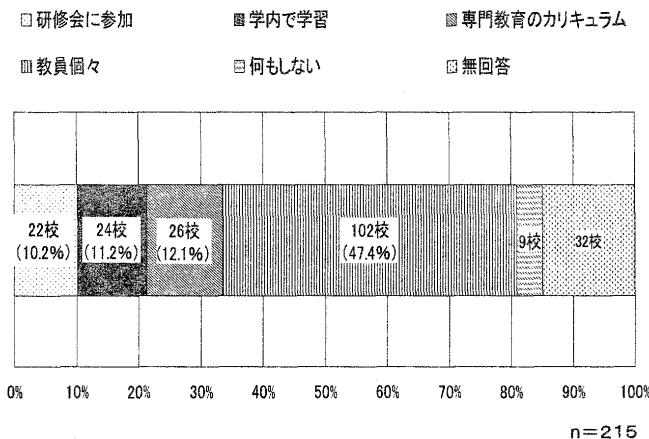


図6 看護教員の看護研究倫理についての学習

（47.4%）であり、なにもしていないと回答したのはわずかに9校（4.2%）であった。

考察

1. 研究実施上の倫理的配慮の指導について

看護研究の倫理的配慮について、8割以上の施設で看護研究における倫理に関する内容を授業で実施しており、7割弱の施設で看護研究の倫理的配慮についてガイダンスで説明していた。しかし、看護研究の倫理に関する規程などを整備している施設は2割もなく、学内で看護研究の倫理の検討会があったり、倫理審査委員会など学内の組織を整備していたりする施設は1割もないことがうかがえた。前述したように日本看護科学学会は「看護学研究における倫理審査体制に関するガイドライン」⁷⁾を2005年に出している。そのガイドラインの倫理審査体制とは、「社会の理解と協力を得て、看護学の進歩のために実施される臨床研究を対象とし、臨床研究の実施、または継続の適否、その他臨床研究に関し必要な事項について、被験者（研究対象者、研究協力者等）の個人の尊厳、人権の尊重、その他の倫理的観点および科学的観点から調査審議するため、看護系大学の長の諮問機関として位置づけられた合議体制の組織」であり、学生が看護研究を実施する場合の教材として活用することを規定している。日本看護科学学会の2003年の看護系大学への調査では81%の大学に研究倫理審査体制があり⁸⁾、今回の3年課程の養成施設への調査結果では3.7%と格段の差で少ないことが明らかになった。3年課程の看護師養成施設の学生であっても、看護師養成としてのカリキュラムの中にある看護研究を実施するということであり、同程度の倫理的配慮が必要と考えられる。しかし倫理審査体制や検討会を実施している施設が1割にも満たないことは問題であり、今後の倫理審査体制を整備していくことが課題と考えられる。

2. 研究対象への同意について

研究対象に同意を取っていると回答した施設は、5割に満たなかった。最も多い研究方法は、専門学校では事例研究が多いが、短大では調査研究が多い。さらに事例研究の場合に研究対象者に必ずしも同意を取っていない施設が多いことが明らかになった。これらのことは、殆どの専門学校の研究で最も多い研究方法は事例研究であり、事例研究を行う場合に実習で担当した患者を事例研究していることが関係しているのではないかと考えられる。実習時に、受け持ち患者として同意を得ており、そのことをもって同意とみなしているとも推測される。しかし、実習は学生の学習を目的にしているのであって、事例研究の目的と学生自身の実習での学びとを混同して捉えられているようにも思われ、実習と事例研究とは異なるも

のという認識が必要と考えられる。実習で受け持った患者であっても、事例研究として研究するならば、研究対象者への同意を得た上で研究し、公表されなければならない。「看護学研究における倫理審査体制に関するガイドライン」では、「患者を事例研究の対象とする場合には研究計画を立て、倫理審査委員会にかけることが必要」⁹⁾としていることに注意が必要であろう。

また、倫理的配慮の説明をガイダンスで実施していると回答した施設のほうが実施していない施設に比べ、看護研究対象者へ口頭もしくは文章で同意を取っていることから、研究倫理を授業内容としてとりあげて講義をするだけではなく、研究倫理について研究を実施するガイダンスの中で行うことも効果があると思われる。

3. 看護教員の看護研究の倫理に関する学習について

約5割の学校が、看護研究の倫理に関する学習について教員個々の学習としており、なにもしていないと回答した施設もあった。村上みち子¹⁰⁾は看護学生が教員の示すロールモデル行動として知覚し、その中には、倫理的に行動が多数含まれていることを明らかにした上で、359名の看護教員を対象とした看護学教員の倫理的行動について内容分析を行っている。この中のコードの一つに「研究対象者の人権擁護に配慮しながら研究を実施・指導する」ことがあがっており、看護教員のしめす倫理的行動が学生への効果的な倫理教育の実現につながるとしている。看護研究を指導する看護教員が看護研究の倫理に関する専門教育のカリキュラムの中で学ぶことや研修会へ参加することにより、学生への研究の倫理について、適切な指導や倫理審査体制の整備へとつながることが期待できる。

謝辞

本研究の調査にご協力いただいた全国の3年課程看護師養成施設の方に深謝いたします。

文献

- 1) ICN：看護研究のための倫理のガイドライン，インターナショナルナースングレビュー，20（1），60-66，1997.
- 2) ICN：看護研究のための倫理のガイドライン 最新報告，インターナショナルナースングレビュー，27（2），37-39，2004.
- 3) 日本看護科学学会看護倫理検討委員会：看護学研究における倫理審査体制に関するガイドライン，看護日本看護科学学会誌，25（2），141-146，2005
- 4) 村上みち子：いま、考えてほしい倫理の問題，看護学教員の倫理的行動，臨床看護，32（5），777-782，2006.
- 5) 富重佐智子，富重健一：看護研究への船出 実践編 学会での知的交流をめざして 研究計画を批判的に点検しよう 実験法を用いた研究計画，臨床看護，32（2），244-250，2006.
- 6) 塚本友栄，舟島なをみ，野本百合子：我が国の看護学教育研究における倫理的問題 1999年から2003年の抄録分析を通して，千葉看護学会会誌，11（2），1-7，2005.
- 7) 前掲書3），141-146.
- 8) 前掲書3），141-146.
- 9) 前掲書3），141-146.
- 10) 前掲書4），777-782.

Problems regarding education on “ethics in nursing research” - A national survey of three-year basic nursing education -

Hideko DOI

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Although an increasing number of studies are being performed, there has been no report of how “ethics in nursing research” is taught in basic nursing education at three-year nursing schools, except for “The 1996 survey of systems to review research ethics in nursing colleges and universities” carried out by the Nursing Ethics Committee, Japan Academy of Nursing Science, between 2002 and 2004.

In 2007, we conducted a national survey of “ethics in nursing research” taught in three-year academic institutions for basic nursing education. The results are as follows: Ethics in nursing research was taught in classes at more than 80% of schools, and nearly 70% provided guidance on them. Less than 20% of schools had established regulations for ethics in nursing research, and either review meetings or ethics committees were organized in less than 5%. Less than 50% of schools obtained consent from study subjects. Most schools did not obtain consent for case studies, probably because they confused the purposes of case studies with those of practical training. It is essential to develop an ethics review system in three-year nursing schools.